

住民主体、多様な支援

WACが全国交流会

「地域の中でネットワークを形成し、必要を手助けする重要な要素としてコミュニティカフェが位置付けられた。自分たちの手で健康と安全、将来の生活を築いていく時代頭あいざつした浅川澄一常務理事は、15年度住民が交流し、支え合ふカフェ開設を検討して援交流よろず相談なコミュニティカフェ介護保険制度見直しをう拠点としても機能する岩手県のNPO法ど、住民の「居場所」ど踏まえ、地域主体で取るコミュニティカフェ人は、「ゆるやかな社」出番をつくりながり組むコミュニティカフェ拡大を目的に企画し

る同協会は東京都内でフェの役割や活動に大みづくりや居場所づく全国交流会を開催。冒きな期待を寄せた。りを目指し、医療・介護・介セラトに打ち出す。中間就労や子育て支援職らがコミュニティ全国交流会では地域

起業プランを発表

「居場所・出番つくり」社会的家族機能など

地域で支え合う仕組みが提案された。が指摘されているコミュニティカフェの持つ、新たな地域づくりの可能性が指摘されているコミュニティカフェの持つ、新たな地域づくりの可能性が指摘された。

1日から一部市町村でスタートした介護予防訪問介護・通所介護の地域支援事業(介護予防・日常生活支援総合事業移行に伴い、カギを握る取り組みといわれているのが「住民主体による多様な支援」。その1つの活動として「コミュニティカフェ」が注目を集めている。長寿社会文化協会(WAC)が開催した「コミュニティカフェ全国交流会」では、運営・経営の難しさなどが指摘されているコミュニティカフェの持つ、新たな地域づくりの可能性が指摘された。

コミュニティカフェの持つ可能性提案

グループ討論はさまざまなテーマで行わした「地域の力の持ち街が企画している講座フェに住まいの相談れ、高齢者関係では居寄りとお裾分け」にもとも運動させ、地域住地域住の困りごとを有償ボランティアをやる場所づくりや認知症力取り組むという。制度民がこながることでフェなど実践者研究の縦割りでは対応しつめる場を設置する。家ツチンクさせられる機能な者らが活発に意見交換ら課題解決、活動を族介護者の居場所づくどを持たせ、訪問介護を進めるためには「行政りや認知症カフェ開事業所に勤務する介護と民間の力が必要」と催、受診待ち時間が長福祉士は「健康寿命を強調。目標としている併設診療所の外来受延ばすコミュニティカフェ」は「支え合いのテリ診患者サビズとしてフェの必要性を感じ、の活用も考えている。生活習慣病やロコモ岩手県の小規模多機能型居宅介護事業所1から大学に出席、助け合い活動イベントを15年度中に開括フェシステム構築に表現した。



「出番をつくりながり組むコミュニティカフェ拡大を目的に企画し